

―連携取組で育てたい人材像とは。

この取組で目指すのは、高専機構が定めた「分野別到達目標（モデルコアカリキュラム）」に従った人材育成です。単に専門能力のみならず、人間力やエンジニアリングデザイン能力など多面的な能力までも質保証された人材です。

―そのような人材を必要とする背景には、どのような課題があるのでしょうか。

今日、高専は国際化や技術の複合・融合化の中で、高度化を進める方針を打ち出しています。この際にもコアとなる部分の土台がしっかりできてこそ、高度化は進められますが、基礎部分も多様化してしまっているのが明らかになっています。このため、大学や企業は自らの機関での教育の出発点が明確にできなくなっているのが現状です。

―なぜこの7高専で連携することになったのですか。

平成21年に始まった分野別到達目標策定の検討に主体的にかかわった教員が所属する高専です。メンバーは、当初から「質保証システムの構築」までを念頭に入れて検討を進めていました。従って、各高専内での事業推進への体制は強固です。

―取組は5年間実施します。どのような計画を立てていますか。

平成24年度は到達度試験策定に向けた先行する共用試験の調査を行い、本事業での試験のアウトラインを固めます。また、国際ルールを踏まえた科目のナンバリングルールの策定や、分野別到達目標と各校のカリキュラムのマッチングの確認システムの構築を行います。さらに、教科書、ICTを活用した高校課程での利用も視野に入れた学習補助教材作成への着手および、先行的な学習支援を開始します。平成25年度には、構築できたシステムの試用や問題点の抽出を行います。平成28年度に最終のシステムを構築し、29年度からの到達度試験の自立的運用方法の決定や51高専への拡大に向けた事業推進がなされます。

―この事業に採択されたことで、新たにどのようなことができるようになりますか。

学生個々の学習状況との関連も含めてアウトプットできるようにするので、学生の個別指導や全

学的FD活動への定量的データとして活用できるようにになります。

―取組の中には、各大学等でこれまで行っていた活動のレベルアップを図るものもあると思います。それはどのようなものですか。

仙台高専を中心に、組込み技術に関する標準化が先行してすすめられています。これを先導事例として到達度試験を策定していきます。また、高専機構では数学と物理の一斉到達度試験をすでに実施しています。今回は問題作成のシステムや、学習状況と成績の関係も把握できるようになるのが特徴です。

―連携の成果はどのような形で社会に示すことができるのでしょうか。具体的な成果指標のイメージはありますか。

全高専生が分野別の到達目標をクリアし、さらに各高専独自の個性ある教育によって成長を続けていける資質を備えたことが、到達度試験により確認できるようになります。特に技術科学大学は、高専―技科大の連続性を特徴とする個性ある人材育成の出発点が明確化できるようになります。

ステークホルダーからのメッセージ

公益社団法人日本工学教育協会 専務理事

剣持 庸一

単に専門能力のみならず、人間力やエンジニアリングデザイン能力など多面的な能力がある人材が、今まさに求められています。そのためには、本取組の柱となる「到達度試験策定」は個性ある人材育成の出発点が明確化できる効果があると考えています。このため、本事業の推進において関係機関と十分に協議し質保証された人材を育成されることを期待します。

